

子どもたちがふるさとを誇り 皆が生きがいのある生活を



平成31年度教育行政方針
教育長 小林 俊夫

平成から新たな時代を迎えようとする中、国は今、教育の大きな転換点を迎えているとされています。新時代の学びを支える先端技術の活用、教育の無償化・負担軽減の推進、学習指導要領の改訂、学校における働き方改革の推進をはじめ、生涯学習の推進など、さまざまな政策を掲げ、学校教育と社会教育の一層の横断的・総合的な教育行政を展開するとしています。特に、子どもを取り巻く環境も大きく変化し、地域社会が子どもと寄り添い、子どもの特性に応じたきめ細やかで、ぬくもりのある教育環境を整えることが求められています。



地域と連携したさまざまな体験を実施

学校教育の充実

- ▼各種文教施設の今後の在り方の検討。
- ▼教育委員コラムの充実や「移動教育委員会」の複数開催。
- ▼社会教育事業の参観拡大。
- ▼ホームページを活用した情報発信。

- ▼各学校における新学習指導要領の全面実施に向けた教育の質の向上。
- ▼教育委員会として、教職員間の連携を一層充実させ「チーム学校」としての学校づくりを支援。
- ▼小学3・4年生で使用する社会科副読本「てしかが」の再編集。
- ▼小・中学校で導入される各教科の教科書採択に向けた取り組み。

1 信頼される学校づくりの推進

- ▼ホームページや学校便りなどを活用した情報発信。
- ▼弟子屈小・中学校、和琴・美留和・奥春別小学校でのコミュニティ・スクール(学校運営協議会)の推進。
- ▼学校における働き方改革の推進。

2 学習指導の充実

- ▼基礎・基本の定着と活用する力を伸ばす学習指導の充実。

弟子屈町教育の計画的な振興

刻々と変化する社会に対応するためには、必要な知識と技能を身に付けていくことが求められ、全ての町民が継続して学習や文化、スポーツに親しむことができる環境づくりが重要です。

- ▼総合教育会議において示される教育大綱に基づく各種事務事業の展開と計画的な教育の推進。

6 健康・安全に関する指導の充実

- ▼「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめインターネットや携帯電話の使用に関する望ましい生活習慣の確立。
- ▼各学校における体育授業の充実など、運動に親しむ環境づくりの推進。
- ▼教育委員会による小中学生対象の思春期講座の実施。
- ▼火災や地震に備えた防災訓練、警察と連携した防犯教室などによる、教師の危機管理意識と児童生徒の危機回避能力の向上。
- ▼子どもサポート隊や子ども110番の家など、地域や関係機関・団体との協力による安全対策の実施。



火災や災害に備えた防災訓練を継続的に実施

8 就学児童生徒保護者への支援

- ▼生活困窮世帯に対する就学援助の継続。
- ▼全ての児童生徒に対する学用品費の負担軽減を継続。

9 幼稚園教育の充実

- ▼認定こども園まじゅうとの連携を継続し、小学校低学年との交流などを推進。

10 高等学校教育支援などの充実

- ▼長期休業期間中に大学進学などを支援する「公設塾」を開設。
- ▼町内小中学校との連携の継続。
- ▼弟子屈高校生徒の文化・スポーツに対する助成の継続。
- ▼町内外から公共交通機関で通学している弟子屈高校生徒の通学費の全額助成。

7 教員の資質向上

- ▼町教育研究所における研究活動の推進。
- ▼北海道教育庁釧路教育局との連携による各種研修会への積極的な参加の促進。
- ▼研究指定校の取り組み、自主公開研究会開催などによる各学校の校内研修の充実と、教職員の実践的な指導力の向上。
- ▼北海道教育委員会による「小学校外国語活動」巡回指導員を配置し、教員の授業実践力の向上を推進。
- ▼玉川大学との連携による小学校

- ▼全国学力・学習状況調査、弟子屈町学力調査などによる子どもたちの学力や学習状況の把握の継続と、学習指導の工夫・改善。
- ▼弟子屈小・中学校での複数教員による少人数指導の実施。
- ▼放課後学習や長期休業中の学習サポートの取り組みの継続。
- ▼学習習慣の確立に向けた家庭学習や読書活動の推進。
- ▼外国語教育については、外国語指導助手2人の派遣を継続し、授業の充実を推進。

5 特別支援教育の充実

- ▼各学校における、特別支援教育支援員の配置や保護者との連絡体制の整備による支援の継続。
- ▼特別支援担当教員の専門性の向上を図る研修の実施。
- ▼弟子屈町特別支援教育推進会議を中心とした情報共有と、支援体制の充実に向けた連携強化。

3 「豊かな心」を育む教育活動の充実

- ▼各学校における道徳の時間の充実。
- ▼鹿児島県日置市との姉妹都市交流などの実施。
- ▼「いじめ根絶に向けた一学校一運動」を推進し、アンケート調査を踏まえた、いじめの撲滅と未然防止に向けた取り組みの推進。
- ▼スクールカウンセラーなどによる学校相談体制の充実。

4 社会の変化に対応する教育の推進

- ▼地域の自然や歴史、文化や人材などを十分に活用したふるさと学習の実施。
- ▼各学校で取り組む特色ある取



鹿児島県日置市との姉妹都市交流

▼ふるさと学習「弟子屈探究」や弟子屈高校PR活動への支援の継続。

▼地域に根差した魅力ある高校づくりへの支援。

11 小中高等学校連携の促進

▼小中高連携校長会議や連携教頭会議における情報共有や意見交換による連携促進。

▼本町の特色を活かし、小中高12年間にわたるキャリア教育の推進。

▼園児・児童・生徒の連携による文化交流を推進。

12 教育環境の整備・充実

▼学校図書や学習教材の充実。

▼複式学級を対象としたタブレット



弟子屈高校の生徒を対象に公設塾を開設し、大学進学を支援



弟子屈高校のふるさと学習「弟子屈探究」を支援

トパソコンの導入。

▼各学校の維持管理、修繕や各種備品購入などの計画的な推進。

▼弟子屈、川湯小学校での放課後児童クラブの開設。

13 学校給食の充実

▼安全でおいしく栄養バランスのとれた給食の提供。

▼学校給食衛生管理基準に基づく衛生・安全管理の徹底。

▼地場産品の活用による、献立の工夫・改善。

▼伝統行事と結びついた食文化の

▼豊かさを知る機会の提供。

▼栄養教諭の食育指導などによる食に対する理解と望ましい食習慣の育成。

▼地産地消に対する助成の継続。

▼弟子屈高校生徒への給食の提供に関する意向調査の実施。



安心でおいしい給食と地産産の牛乳で乾杯

社会教育活動の推進

1 生涯学習事業の充実と社会教育の振興

▼町民の生涯にわたる学びを支援し、相互のつながりを促進するため、第7次弟子屈町社会教育中期計画で示される各種事業を積極的に推進する。

▼弟子屈町教育支援活動運営委員会による学校支援活動、家庭教育支援活動の継続。

▼文化・スポーツ少年団活動への支援、町の地域資源を学ぶふるさと教室など、郷土愛を醸成していく取り組みの推進。

▼弟子屈高校の「地域貢献活動」への支援。

▼成人や高齢者の学習活動におけるさまざまなニーズに応える学習内容の充実。

▼町公式ウェブサイトや広報紙による積極的な広報活動の推進。

▼第70回北海道女性大会の開催を支援。

▼公民館を核とした潤いある豊かなコミュニティの醸成。

2 公民館、図書館活動の充実

▼地域の貴重な人材を活用した幅広い講座を開設するなど、多様な学習機会の提供。

▼松浦武四郎記念館から講師を招き、特別講演の実施。

▼町民の交流を深める「公民館ミニコンサート」や、学習の成果を発表する「公民館ロビー展」の開催。

▼図書館の図書の充実と、インターネットによる蔵書検索や予約サービス、町広報紙などを利用した情報提供などの推進。

▼図書館開館30周年を記念した講演会などの実施。

▼移動図書館バスの活用、ボランティアとの協働による読み聞かせ、「第2次弟子屈町子ども読書活動推進計画」の着実な実行など、子どもが読書を楽しめる環境づくりを推進。



図書館が開館して30年に

3 芸術文化活動への支援と振興

▼弟子屈町文化協会の活動や、弟子屈町総合文化祭への支援の継続。

▼芸術鑑賞バス運行事業の継続による優れた芸術文化に触れる機会の充実。

▼各小学校、保育園、こども園などとの連携による幼児、児童芸術鑑賞会の継続開催。

▼文化振興助成制度による全道・全国大会への参加支援の継続。



図書館で開催された「ぬいぐるみお泊まり会」

4 文化財保護などの活動推進

▼貴重な文化財の保護・保全・伝承の取り組み。

▼縄文遺跡に係る北海道縄文のまち連絡会との連携事業の継続。

▼屈斜路コタンアイヌ民俗資料館

5 スポーツ活動の推進

▼町民がスポーツを通し、心身が健康で充実した生活を送るための環境づくりの推進。

▼弟子屈町体育協会、文化・スポーツ少年団活動への支援。

▼スポーツ推進委員や指導員の資質向上を促進。

▼各種スポーツ教室や、学校施設開放事業によるスポーツに親しむ機会の充実。

▼屈斜路湖オープンウォータースイミング大会の開催支援。

▼桜丘森林公園クロスカントリー



さまざまなスポーツを通して健康で明るい生活を(キンボール)

6 社会教育施設などの充実

▼社会教育・体育施設の適切な維持管理。

▼施設職員の資質向上への取り組み。

▼青少年会館、川湯屋内ゲートボール場、町民テニスコートの廃止。



日本水泳連盟認定サーキットシリーズになる屈斜路OPWS

教育環境が大きく変化する大事な節目の時期にあることを踏まえながら、ふるさとの次代を担う子どもたちが豊かな心をもって生き生きと学び、町民の皆さんが心身ともに健康で生涯にわたって生きがいのある生活を送ることができ環境づくりのために、全力で取り組んでいきます。